

1. 授業科目名	『子どもの心』をはぐくむための関わり方		
2. 担当教員名	岩橋 宗哉・吉岡 和子		
3. 授業の概要	<p>私たちが一人ひとりの子どもの教育ニーズに応じて行くためには、「指導的な関わり」と同時に「援助的な関わり」が必要である。その2つの関わりは互いに補い合いながら私たちの教育的な関わりを形作っている。</p> <p>しかし、子どもたちへの関わりがうまくいかないと感じる時、私たちは、往々にして、私たちの視点から「指導的な関わり」のみを強めがちである。</p> <p>「援助的な関わり」とは、子どもたちの視点に立って、子どもたちが様々な場面で出会う問題状況や課題をどのように感じているのを理解し、彼ら自身が解決していけるように関わることである。</p> <p>この授業は、ワークにおける体験を通して、『子どもの心』をはぐくむための援助的な関わり方の重要性を再認識する機会となることを目指している。</p>		
4. 到達目標	『子どもの心』をはぐくむための援助的な関わり方の重要性を自らの体験を通して再認識する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
6. テキスト・参考文献等			
7. 成績、評価方法・基準	<p>試験：穴埋め式(20点)と記述式(30点)、自由記述(50点) 計100点 基準：90点以上=A、80点～90点=B、70点～80点=C、60点～70点=D、60点未満=不合格</p>		
8・特記事項			

1

「こころ」とは
 「はぐくむ」ことについて
 「指導的関わりと援助的関わり」
 「はぐくむ関わりの視点」

「聴くことの大切さを学ぶ」
 「聴いてもらうことの良さを体験する」

講義とワーク

講義日程・時間

8月 24 日 水 曜日

2 限目

1. 授業科目名	自傷行為をする青少年の心理と関わり方		
2. 担当教員名	小嶋 秀幹		
3. 授業の概要	自傷行為をする青少年の心理的問題を概説し、そのような生徒に関わる教員の関わり方について、具体例を示して解説する。		
4. 到達目標	自傷行為等の問題行動をもつ青少年の心理、教員や友人(生徒)が関わっていく上でのスタンスを理解する。		
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容	授業方法
	1	自傷行為をする青少年の心理と関わり方	講義
6. テキスト・参考文献等	<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松本俊彦: 自傷行為の理解と援助、日本評論社、2009年 ・ダグラス・ジェイコブ他: 学校における自傷予防、金剛出版、2010年 ・マイケル・ウンガー: リジリアンスを育てよう、金剛出版、2015年 		
7. 成績、評価方法・基準	テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)		
8・特記事項			

講義日程・時間	
8月 24 日 水 曜日	3 限目

1. 授業科目名	ペアレントトレーニングの教育現場への応用	
2. 担当教員名	福田 恭介	
3. 授業の概要	<p>行動療法や応用行動分析の考えに基づくペアレントトレーニングは、知的障害だけでなく、自閉症スペクトラム(Autism Spectrum Disorder), 注意欠如・多動性障害(Attention Deficit/Hyperactivity Disorder: AD/HD), 学習障害(Learning Disability: LD)などの発達障害を持つ子どもの親に対して行われている。そこでは、子どもの行動を観察・記録し、そこから得られたデータをもとに、家庭で対策が実践されている。それにより親の養育への考えが変化し、養育行動が変化することで子どもの問題行動が減り、適応行動が増えることが示されている(福田, 2011)。</p> <p>この取組は、現場で子どもと関わる中で困難を抱えている教師への支援にも応用可能である。なぜなら、教師は子どもの行動を観察・記録できる立場にあり、記録されたデータから子どもの問題行動を減らし、適応行動を増やすための手がかりを見つけることができるからである。</p> <p>この講義では、子どもの行動を観察・記録することによって、どのような手がかりを見つけることができるのか、子どもの行動の見方を変えることによって、どのような対策が考えられるか、これまで取り組んだ事例を交えて話していく。</p>	
4. 到達目標	<p>(1)子どもの行動と教師の言葉かけを観察・記録することができる。</p> <p>(2)子どもの行動及び教師の言葉かけの観察・記録結果から子どもへの対応の手がかりをつかむことができる。</p>	
5. 授業内容・授業方法等	コマ	授業内容
	1	特別支援教育へのペアレントトレーニングの考え方の応用について、視覚的な資料を用いて説明していく。
		授業方法
		講義
6. テキスト・参考文献等	「ペアレントトレーニング実践ガイドブックーきつとうまくいく。子どもの発達支援」 福田恭介(編著)2011 あいり出版	
7. 成績、評価方法・基準	テスト(100点満点のテストで90点以上A、80点から90点B、70点から80点C、60点から70点D、60点未満は不合格)	
8. 特記事項		